

**(品目別需給編)**

# 1 小麦

## (1) 国際的な小麦需給の概要（詳細は右表を参照）

＜米国農務省（USDA）の見通し＞ 2021/22年度

**生産量** 前年度比 前月比

- EU等で上方修正も、カナダ、米国等で下方修正され、前月から下方修正された。史上最高の見込み。

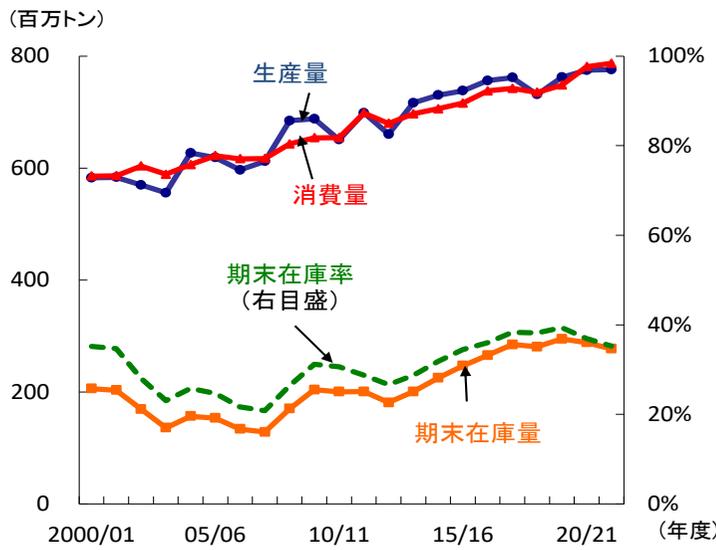
**消費量** 前年度比 前月比

- ロシア等で上方修正も、米国、インド等で下方修正され、前月から下方修正された。史上最高の見込み。

**輸出量** 前年度比 前月比

- 豪州等で上方修正も、カナダ等で下方修正され、前月から下方修正された。

**期末在庫量** 前年度比 前月比



資料：USDA「PS&D」（2021. 10. 12）をもとに農林水産省で作成

## ◎世界の小麦需給

（単位：百万トン）

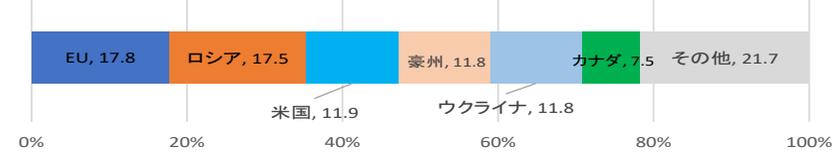
年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	762.3	774.7	775.9	▲ 4.4	0.1
消費量	748.3	781.2	787.1	▲ 2.6	0.8
うち飼料用	139.2	156.9	158.7	▲ 0.5	1.2
輸出量	194.3	201.3	199.6	▲ 0.1	▲ 0.8
輸入量	187.4	194.1	198.1	1.0	2.0
期末在庫量	294.8	288.4	277.2	▲ 6.0	▲ 3.9
期末在庫率	39.4%	36.9%	35.2%	▲ 0.6	▲ 1.7

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」 (12 October 2021)

### ○ 2021/22年度の世界の小麦の生産量（775.9百万トン）（単位：%）



### ○ 2021/22年度の世界の小麦の輸出量（199.6百万トン）



### ○ 2021/22年度の世界の小麦の輸入量（198.1百万トン）



## (2) 国別の小麦の需給動向

### < 米国 > 生産量は前年度に比べ1割減

【生育・生産状況】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、収穫面積、単収ともに減少したことから、前月予測から1.4百万トン下方修正され、44.8百万トンの見込み。

同「Crop Production」(2021.10.12)によれば、作期別の生産量は、冬小麦は前月に比べ1.1百万トン下方修正され34.8百万トン(対前年度比9.0%増)、また、春小麦も同0.3百万トン下方修正され9.0百万トン(同43.6%減)。一方、デュラム小麦は同0.1百万トン上方修正され1.0百万トン(同46.1%減)。7月末からのプレーンズ北部の干ばつにより、前年度に比べ、春小麦は主産地のノースダコタ州で36.7%減、モンタナ州で70.5%減、デュラム小麦はノースダコタ州で43.9%減、モンタナ州で65.7%減となった。

同「Crop Progress」(2021.10.18)によれば、10月17日時点の播種進捗率は、70%と前年度(76%)、5年平均(71%)を下回った。また、発芽進捗率は、44%と前年度(50%)、5年平均(47%)を下回った。しかし、冬小麦の主産地であるカンザス州では、作付け進捗率が75%、発芽進捗率が47%と、それぞれ5年平均の68%、46%を上回っている。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の飼料用消費は、生産量の減少と小麦価格がとうもろこし価格に比べ高いことから、前月予測に比べ0.7百万トン下方修正され3.7百万トンの見込み。

同年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、23.8百万トンと、前年度を11.8%下回る見込み。2021/22年度当初の契約、輸出のペースは遅かったものの、同年度後半には他の主要輸出国の輸出余力の逼迫により、米国産に需要がシフトすると見られる。9月の輸出先国は、フィリピン(20.7%)、メキシコ(14.9%)、中国(9.8%)の順。

USDA「Grain Stock」(2021.9.30)によれば、9月1日現在の小麦の在庫量は、前年度同期に比べ17.5%減少の48.8百万トン。そのうち、生産量の減少と高水準な小麦価格から、農家在庫は同41%減少し、1963年以降最低の11.4百万トンとなった。また、2021/22年度(2021.6~2022.5)の期末在庫量は、2007/08年度以降最小の15.8百万トンの見込み。

## 小麦一米国(冬小麦が全体の7割、春小麦は3割)

(単位:百万トン)

年度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生産量	52.6	49.8	44.8	▲ 1.4	▲ 10.0
消費量	30.4	30.5	31.6	▲ 0.7	3.7
うち飼料用	2.6	2.6	3.7	▲ 0.7	41.7
輸出量	26.4	27.0	23.8	-	▲ 11.8
輸入量	2.8	2.7	3.4	▲ 0.3	24.5
期末在庫量	28.0	23.0	15.8	▲ 0.9	▲ 31.3
期末在庫率	49.3%	40.0%	28.5%	▲ 1.3	▲ 11.5

(参考)

収穫面積(百万ha)	15.13	14.89	15.04	▲ 0.38	1.0
単収(t/ha)	3.47	3.34	2.98	▲ 0.01	▲ 10.8

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」  
「World Agricultural Production」(12 October 2021)

表 米国の小麦輸出先国別輸出量(輸出検証高)

(万トン)

2021年9月			2021年1月~9月			2020年1月~12月		
国名	検証高	シェア(%)	国名	累積検証高	シェア(%)	国名	累積検証高	シェア(%)
フィリピン	44.0	20.7	メキシコ	301.7	15.6	フィリピン	329.8	13.0
メキシコ	31.7	14.9	フィリピン	258.5	13.3	メキシコ	287.3	11.3
中国	20.8	9.8	中国	220.1	11.4	日本	255.6	10.1
日本	18.6	8.7	日本	185.8	9.6	中国	210.3	8.3
韓国	13.9	6.5	韓国	152.4	7.9	韓国	140.2	5.5
その他	69.4	32.6	その他	817.7	42.2	その他	1,311.9	51.7
合計	212.7	100.0	合計	1936.2	100.0	合計	2,535.2	100.0

注1. 9月の輸出検証高は、9月9、16、23、30日の合計値

注2. 2021年累積輸出検証高は、2021年1月7日~9月30日の合計

注3. 2020年の累積輸出検証高は、2020年1月2日~12月31日の合計

資料:USDA Federal Grain Inspection Services Yearly Export Grain Totals (2021年10月12日)より作成。

図 年度別の米国産小麦の期末在庫量の推移



資料:USDA「PS&D」(2021.10.12)をもとに農林水産省で作成

## < カナダ > 耕作放棄面積の増加と単収の低下で減産見通し

【生育・生産状況】カナダ農務農産食品省(AAFC)「Outlook For Principal Field Crops」(2021.10.20)によれば、2021/22年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、21.7百万トン。干ばつによる単収の低下と作付面積の減少、加えて耕作放棄地の増加により、前年度に比べて38.3%減少した。品種別には、それぞれ前月予測からの変更はなく、デュラム小麦は3.5百万トン、普通小麦は18.2百万トン。USDAによれば、本年度の作付面積に対する耕作放棄地の割合は例年に比べ増加し、10.5%(前年度1.72%)に達する見込み。

AAFCによれば、カナダ穀物委員会(CGC:Canadian Grain Commission)のサンプル調査の結果、デュラム小麦の品質は平均タンパク質含有量が15.7%で、多くが1から2等に格付けされ、普通小麦は平均を上回るタンパク質含有量となり多くが1等から2等に格付けされた。

各州政府の報告によれば、アルバータ州では、晴天に恵まれ10月12日時点の春小麦の収穫進捗率が終了(前年度同時期97%)。品質は、地域によって5年平均を上回った。サスカチュワン州では、同4日時点で小麦の収穫は終了。なお、降雨不足で州全体の土壌水分不足の懸念が継続。マニトバ州では、同5日時点で、春小麦の収穫進捗率は99%(前年度99%)に達した。

AMIS「Market Monitor」(2021.10.7)によれば、平原三州で同年度の春小麦の収穫は終了。継続する干ばつが懸念される中、2022/23年度の冬小麦の播種が開始された。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度(2021年8月～2022年7月)の輸出量は、干ばつによる生産減から、前月に比べ2.0百万トン下方修正され、2012/13年度以降最低の15.0百万トンの見込み。

一方、AAFCによれば、2021/22年度の輸出量は前月予測から0.5百万トン上方修正され16.1百万トン。そのうち、普通小麦は良好な品質から前月予測から0.5百万トン上方修正され13.0百万トンの見込み。デュラム小麦は前月からの変更はなく、3.1百万トン。CGCによれば、8月の輸出量は普通小麦が1.4百万トン、デュラム小麦は0.4百万トンの1.8百万トン。輸出先国は、普通小麦が日本(12.9%)、エクアドル(10.9%)、インドネシア(9.6%)、デュラム小麦がモロッコ(48.9%)、イタリア(9.0%)の順。

## 小麦－カナダ（春小麦を主に栽培）

(単位：百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値、( )はAAFC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	32.7	35.2	21.0 (21.7)	▲ 2.0	▲ 40.3
消費量	9.3	9.1	7.9 (8.1)	▲ 0.1	▲ 13.5
うち飼料用	4.1	4.2	2.8 (4.0)	-	▲ 33.0
輸出量	24.6	26.4	15.0 (16.1)	▲ 2.0	▲ 43.2
輸入量	0.7	0.6	0.7 (0.2)	-	27.3
期末在庫量	5.5	5.7	4.5 (4.0)	0.1	▲ 21.1
期末在庫率	16.2%	16.0%	19.6% (16.3%)	2.0	3.6
(参考)					
収穫面積(百万ha)	9.66	10.02	8.50 (9.17)	▲ 0.70	▲ 15.2
単収(t/ha)	3.38	3.51	2.47 (2.37)	▲ 0.03	▲ 29.6

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(12 October 2021)  
AAFC「Outlook For Principal Field Crops」(20 October 2021)

図 カナダの小麦生産量、収穫面積単収の推移(2010/11年度～2021/22年度)



資料USDA「PS&D」(2021.10.12)をもとに農林水産省で作成

図 カナダの耕作放棄地面積の推移



資料 USDA「World Agricultural Production」(2021.10.12)

## < 豪州 > 生産量の増加で輸出量が増加、アジア市場向けが堅調

【生育・生産状況】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、31.5百万トン。前年度に比べ4.5%減少するものの、史上第3位の豊作の見込み。

豪州農業資源経済科学局(ABARES)「Australian Crop Report(2021.9.7)」によれば、2021/22年度の生産量は、史上最高の前年度に比べ2%減少も、5年平均(23.6百万トン)を上回る32.6百万トンの見込み。

AMIS「Market Monitor」(2021.10.7)によれば、殆どの作付地域で、降雨があり土壌水分量が良好であることから、冬小麦は概ね良好な状態で生育している。

GIWA(西豪州穀物産業団体)によれば、2021/22年度の小麦の収穫が開始された。小麦の生産量は、9月予測(10.6百万トン)から下方修正され、10.5百万トンの見込みで、過去最高であった2016/17年度の10.6百万トンを僅かに下回るものの高水準。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の輸出量は、前月予測から0.5百万トン上方修正され、23.5百万トン。豪州の輸出先は、主として地理的に近く、ホワイト小麦の需要が多いアジアに集中すると見られている。米国や黒海諸国の輸出量減少の一方、豪州は2年続きの豊作により競争力のある価格で輸出が可能となったことから、もともと豪州の輸出市場であった世界第2位の小麦輸入国であるインドネシアの市場を取り戻した。加えて、カナダの生産減から、インドネシアへの輸出は今後も続くと思われる。他にも、ベトナムは食用や飼料用の需要が増加していることから、豪州の主要輸出先となっている。中国は、小麦以外の商品で貿易紛争が生じているが、豪州からは高品質小麦の輸入を継続している。また、本来、米国の市場であるフィリピンでも輸出量を伸ばしている。

アジア市場では輸送コストや輸送日数の点で他の輸出国に比べ有利であるため、十分な生産量が確保されれば、豪州の輸出は長期的に堅調に推移すると見られる。

豪州統計局によれば、8月の輸出先国は、ベトナム(20.3%)、フィリピン(14.5%)、インドネシア(11.8%)の順。

豪州産穀物への需要の集中により、輸出コストが上昇しており注視が必要。

## 小麦—豪州 (冬小麦を主に栽培)

(単位：百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22			
			予測値、( )はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	14.5	33.0	31.5 (32.0)	-	▲ 4.5	
消費量	8.0	8.0	8.0 (8.7)	▲ 0.2	-	
うち飼料用	4.5	4.5	4.5 (5.0)	▲ 0.2	-	
輸出量	9.1	24.0	23.5 (23.0)	0.5	▲ 2.1	
輸入量	0.9	0.2	0.2 (0.4)	-	-	
期末在庫量	2.7	3.9	4.1 (5.1)	▲ 0.8	5.2	
期末在庫率	15.6%	12.1%	13.0% (16.2%)	▲ 2.7	0.8	
(参考)						
収穫面積(百万ha)※	9.86	13.00	13.10 (13.0)	-	0.8	
単収(t/ha)	1.47	2.54	2.40 (2.47)	-	▲ 5.5	

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(12 October 2021)  
IGC「Grain Market Report」(23 September 2021)

図 豪州産小麦の生産量、輸出量、期末在庫量の推移

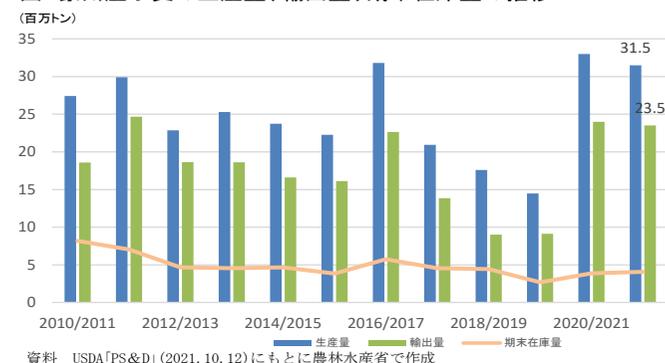


表 豪州の小麦輸出先国別輸出量

(万トン)

2021年8月			2021年1月～8月		
国名	輸出量	シェア(%)	国名	累積輸出量	シェア(%)
ベトナム	43.6	20.3	インドネシア	418.0	21.8
フィリピン	31.2	14.5	ベトナム	248.9	13.0
インドネシア	25.3	11.8	フィリピン	157.3	8.2
日本	18.1	8.4	中国	123.4	6.4
中国	14.1	6.6	タイ	87.1	4.5
その他	82.6	38.4	その他	880.5	46.0
合計	214.9	100.0	合計	1,915.2	100.0

資料：豪州統計局のデータをもとに農林水産省で加工

## < EU > EU27の生産量は前月に比べ上方修正

【生育・生産状況】EU委員会「EU Cereals Production Area and Yield」(2021.9.30)によれば、2021/22年度のEU27ヶ国の生産量は、前月予測から3.9百万トン上方修正され、140.1百万トン。農業市場情報システム(AMIS)「Market Database Supply and Demand Overview」(2021.10.11)によれば、英国の同年度の生産量は、前月予測から0.9百万トン下方修正され、14.0百万トン。EU27ヶ国と英国の合計生産量は154.1百万トンの見込み。同委員会によれば、普通小麦(EU27)は前月に比べ3.8百万トン上方修正され、132.0百万トンと前年度を11.9%上回る見込み。国別には、ドイツ等で下方修正されたものの、ポーランド、ルーマニア等で上方修正された。

一方、デュラム小麦は、前月に比べ0.1百万トン上方修正され8.0百万トンと同12.2%上回る見込み。国別にはスペインで下方修正されたものの、ドイツ等で上方修正された。

「France Agri Mer」(2021.10.11~15)によれば、普通小麦の品質は、タンパク質含有量は全国平均で11.9%となっており、過去5年平均に比べ低水準となっている。また、夏の長雨の影響で水分含有率が14%と高くなり、乾燥工程が必要となっている。クラス別の評価では、10.8%が良、15.9%がやや良、63.7%が並に格付けされている。

ドイツでは8月の降雨で土壌水分が十分となり、9月には2022/23年度の冬小麦の作付けが進んだ。フランス、英国でも、9月の降雨で土壌水分は回復しており、10月11日現在、フランスの2022/23年度の作付進捗率は13%となり、前年度同時期の11%を上回っている。一方、夏の降雨量が平年の半分以下となったイタリアでは南部で9月も少雨が続いたことから、ルーマニアの一部とともにイタリアでも土壌水分不足が懸念されている。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の輸出量は、生産量の増加から、前月予測から0.5百万トン上方修正され、36.2百万トンの見込み。EU委員会によれば、7月の輸出量は、普通小麦が1.5百万トン、デュラム小麦が0.03百万トン。輸出先国は、普通小麦が韓国(20.1%)、アルジェリア(9.9%)、デュラム小麦がコートジボワール(32.6%)、サウジアラビア(11.6%)。USDAによれば、期末在庫量は出増で前月予測に比べ0.3百万トン下方修正され12.7百万トン。

## 小麦-EU (冬小麦を主に栽培)

(単位:百万トン)

年度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値、( )はIGC	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生産量	154.3	135.7	154.4 (151.2)	0.4	13.8
消費量	122.9	117.7	124.2 (123.0)	-	5.5
うち飼料用	53.2	48.0	53.7 (50.8)	-	12.0
輸出量	41.4	30.2	36.2 (35.3)	0.5	19.9
輸入量	7.3	8.6	7.3 (7.2)	▲0.1	▲15.1
期末在庫量	15.1	11.4	12.7 (11.7)	▲0.3	11.4
期末在庫率	9.2%	7.7%	7.9% (7.4%)	▲0.1	0.2
(参考)					
収穫面積(百万ha)	26.16	24.47	25.73 (25.31)	0.05	5.1
単収(t/ha)	5.90	5.54	6.00 (5.97)	-	8.2

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(12 October 2021)

IGC 「Grain Market Report」(23 September 2021)

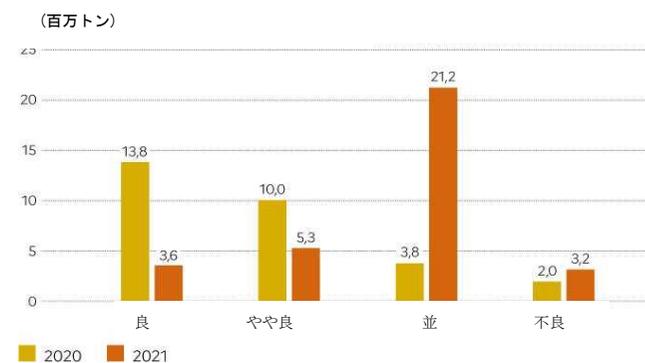
表内及び( )内のデータはEU27ヶ国+英国のデータ

図 EU27か国の生産量、収穫面積、単収の推移(2010/11年度~2021/22年度)



資料USDA 「PS&D」(2021.10.12)をもとに農林水産省で作成

図 フランス産普通小麦の品質クラス別の数量



資料「France Agri Mer」(2021.10.11)

## < 中国 > 天候に恵まれ生産量は史上最高の見通し

【生育・生産状況】中国糧油情報センター(2021.10.8)によれば、2021/22年度の実生産量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比2.1%増の137.1百万トンと史上最高の見込み。内訳は、冬小麦が前年度比1.9%増の129.3百万トン、春小麦は同4.9%増の7.8百万トン。

なお、2021/22年度の小麦の収穫は終了した。

中国中央气象台(2021.10.12)によれば、2022/23年度の冬小麦の播種が開始された。10月11日現在、播種進捗率は11.4%であるが、頻繁な降雨のため、前年度同時期に比べて7.9ポイント、例年に比べて20ポイント下回っている。省別には、山東省、河南省では播種が開始され、江蘇省、山西省では播種進捗率がそれぞれ約20%、約10%となっている。

【貿易情報・その他】中国糧油情報センターによれば、2021/22年度の実消費量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比1.2%減少の145.5百万トン(飼料用は同5.3%減少の36.0百万トン)の見込み。また、2021/22年度の実輸入量は、前月予測からの変更はなく、前年度より23.3%減少の8.0百万トンの見込み。中国海関統計によれば、2021年1月から8月の小麦輸入量は前年同時期(4.8百万トン)から44.3%増の6.9百万トンとなった。同期間の輸入先国は、カナダ(32.4%)、米国(29.6%)、豪州(24.7%)の順で、この3カ国で全体の86.7%を占めている。一方、前年度1位であったフランスは、5月から8月の間は実績がない。

国家発展改革委員会(2021.9.30)によれば、2022年の小麦の輸出関税割当て数量は、2021年と変わらず963.6万トンで割当内関税率は1%。また、輸入関税割当以外の最恵国関税(WTO内)は65%、その他の普通関税は180%。なお、関税割当数量のうち、国家貿易比率は90%である。

中国農産品供需形勢分析月報(8月)によれば、8月の国内小麦価格は、国内市場において小麦粉消費の需要の高まりとともに、加工企業の稼働率が上昇し、10月の国慶節に向けた季節的な在庫補充需要で小麦価格は上昇した。一方、9月には小麦粉消費はピークに入るものの、小麦価格が高く加工業者の収益が低くなるため、購入意欲は低下している。今後、国内小麦価格は短期的に高水準を保ちながら、上下する見通し。

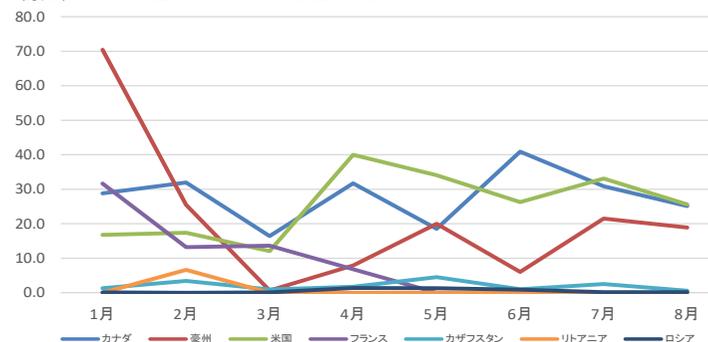
## 小麦—中国(冬小麦を主に栽培)

(単位:百万トン)

年度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22			
			予測値、( )はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	133.6	134.3	136.9 (137.1)	-	2.0	
消費量	126.0	150.0	149.0 (145.5)	-	▲0.7	
うち飼料用	19.0	40.0	36.0 (32.4)	-	▲10.0	
輸出量	1.1	0.8	1.0 (1.3)	-	31.6	
輸入量	5.4	10.6	10.0 (9.6)	-	▲5.8	
期末在庫量	150.0	144.1	141.0 (128.1)	-	▲2.2	
期末在庫率	118.1%	95.6%	94.0% (87.3%)	-	▲1.6	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	23.73	23.38	23.80 (23.8)	-	1.8	
単収(t/ha)	5.63	5.74	5.75 (5.76)	-	0.2	

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(12 October 2021)、  
IGC「Grain Market Report」(23 September 2021)

図 中国の小麦輸入先国の推移(2021年1月～同年8月)



順位	2021年8月		2021年1月～2021年8月		2020年1月～2020年12月				
	国名	輸出量 (百万トン)	輸出シェア (%)	国名	輸出量 (百万トン)	輸出シェア (%)	国名	輸出量 (百万トン)	輸出シェア (%)
1	米国	25.6	36.4	カナダ	224.4	32.4	フランス	238.3	29.2
2	カナダ	25.1	35.7	米国	205.3	29.6	カナダ	229.7	28.2
3	豪州	18.9	26.8	豪州	170.9	24.7	米国	178.4	21.9
4	カザフスタン	0.6	0.9	フランス	65.4	9.4	豪州	109.0	13.4
5	ロシア	0.2	0.3	カザフスタン	16.2	2.3	リトアニア	33.3	4.1
6	フランス	0.0	0.0	リトアニア	6.6	1.0	カザフスタン	19.2	2.4
7	リトアニア	0.0	0.0	ロシア	4.2	0.6	ロシア	7.2	0.9
計		70.5	100.0		693.0	100.0		815.2	100.0

出典:中国海関統計をもとに農林水産省で作成

## < ロシア > 生産量は前年度を下回るも品質は良好

【生育・生産状況】USDAによれば、2021/22年度の生産量(クリミア分は含まない)は、前月予測からの変更はなく、前年度に比べ 15.1%減少の 72.5 百万トンの見込み。作期別の生産量は、冬小麦は 50.5 百万トン、春小麦は 22.0 百万トンの見込み。

ロシア農業省の速報値によれば、10月13日現在の小麦収穫面積は 27.2 百万ヘクタール(収穫進捗率は 83.9%)、収穫量(調製前)は 76.5 万百万トンである。

現地情報会社によれば、10月8日時点で、シベリア管区で 70 万 ha 以上、沿ヴォルガ管区で 60 万 ha 以上、ウラル管区で 30 万 ha が9月末からの降雨・降雪で未収穫面積となっているため、本年度の収穫予測が引き下げられる可能性がある。

ロシア穀物品質評価センターによれば、10月4日までに収穫された 71.1 百万トンの 50.3%にあたる 35.8 百万トンを検査したところ、1等及び2等は 0.12%(前年同日 0.20%)、3等は 46.9%(同 33.4%)、4等は 41.0%(同 39.3%)、主に飼料用の5等は 11.9%(同 27.0%)であり、1～4等の比率は 88.0%と前年同日時点の 71.7%を大きく上回り、品質は高水準となる見通し。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、35.0 百万トンの見込み。本年度は、輸出先国別では、干ばつに見舞われたイランからの需要が増加する見込み。ロシア連邦税関庁の速報値によれば、ロシアの8月の小麦輸出量は前月の 1.9 百万トンから大幅に増加し 5.3 百万トンとなり、前年度同月(4.7 百万トン)を 11.9%上回った。現地輸送会社及び情報会社によれば、この輸出量の増加は、南部での豊作、品質の高さ、国際相場の上昇、トルコ、サウジアラビア、イランの需要が伸びたことや、輸出関税が上昇する前の駆け込み輸出の増加のためである。10月以降は、国際相場にもよるが、輸出関税が上昇したことを背景に、輸出用に確保していた在庫を国内向けに販売する業者が増えると見られている。

ロシア農業省市場調整局によれば、穀物の可変輸出関税制度は 2021/22 年度の全期にわたり維持される。さらに、2022年2月15日から6月30日まで、穀物輸出に数量枠の設定が検討されている。パトルシェフ農相は、「来年2月からは穀物輸出枠が設定されるが、ロシアは輸出を継続できるだけの収穫を得られる」と発言した。

## 小麦—ロシア(主産地の欧州部で冬小麦、シベリアで春小麦を栽培)

(単位:百万トン)

年度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値、( )はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	73.6	85.4	72.5 (75.0)	-	▲ 15.1
消費量	40.0	42.5	40.5 (41.7)	0.5	▲ 4.7
うち飼料用	17.0	19.0	17.5 (17.3)	0.5	▲ 7.9
輸出量	34.5	38.5	35.0 (34.1)	-	▲ 9.1
輸入量	0.3	0.4	0.5 (0.3)	-	25.0
期末在庫量	7.2	12.0	9.5 (12.3)	▲ 0.4	▲ 20.9
期末在庫率	9.7%	14.8%	12.6% (16.2%)	▲ 0.8	▲ 2.2

(参考)

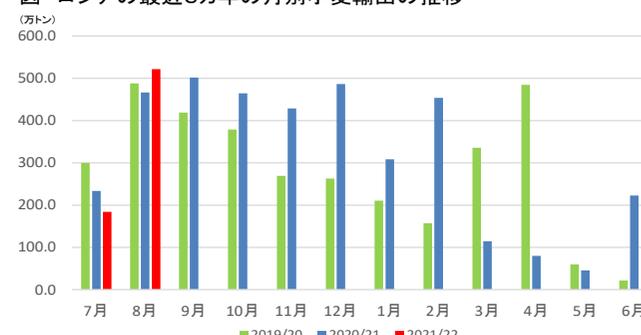
収穫面積(百万ha)	27.31	28.68	28.00 (28.0)	-	▲ 2.4
単収(t/ha)	2.70	2.98	2.59 (2.68)	-	▲ 13.1

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(12 October 2021)  
IGC 「Grain Market Report」(23 September 2021)

図 ロシア産小麦の可変輸出関税額の推移



図 ロシアの最近3カ年の月別小麦輸出の推移



資料 ロシア税関統計をもとに農林水産省で作成

## 2 とうもろこし

(1) 国際的なとうもろこし需給の概要（詳細は右表を参照）

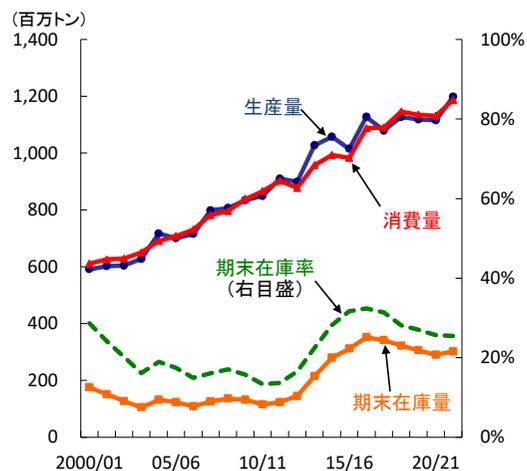
＜米国農務省（USDA）の見通し＞ 2021/22年度

**生産量** 前年度比 ↑ 前月比 ↑  
 ・ウクライナ、ロシア等で下方修正も、EU、米国等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

**消費量** 前年度比 ↑ 前月比 ↓  
 ・バングラデシュ等で上方修正も、米国、ベトナム等で下方修正され、前月から下方修正された。史上最高の見込み。

**輸出量** 前年度比 ↑ 前月比 ↑  
 ・ウクライナ等で下方修正も、インド、米国等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

**期末在庫量** 前年度比 ↑ 前月比 ↑



資料：USDA「PS&D」（2021.10.12）をもとに農林水産省にて作成

## ◎世界のとうもろこし需給

(単位：百万トン)

年度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値	前月予測からの 変更	対前年度 増減率 (%)
生産量	1,118.6	1,115.5	1,198.2	0.5	7.4
消費量	1,135.1	1,131.6	1,186.5	▲ 0.2	4.8
うち飼料用	715.9	723.3	746.2	▲ 3.1	3.2
輸出量	172.4	178.0	201.9	0.6	13.5
輸入量	167.6	186.4	183.9	▲ 2.1	▲ 1.4
期末在庫量	306.1	290.0	301.7	4.1	4.1
期末在庫率	27.0%	25.6%	25.4%	0.3	▲ 0.2

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(12 October 2021)

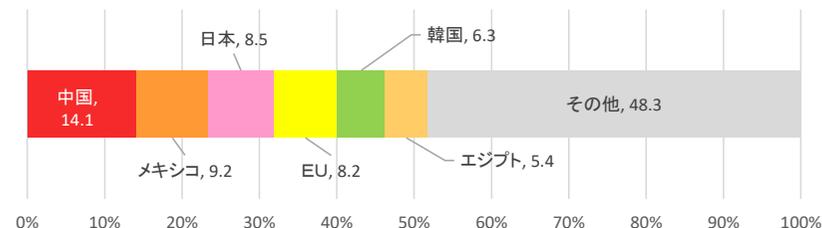
○ 2021/22年度 世界のとうもろこしの生産量(1,198.2百万トン) (単位：%)



○ 2021/22年度 世界のとうもろこしの輸出量(201.9百万トン)



○ 2021/22年度 世界のとうもろこしの輸入量(183.9百万トン)



(2) 国別のとうもろこしの需給動向

< 米国 > 収穫面積増、単収上方修正で生産量史上第2位、輸出減の見通し

【生育・生産状況】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、アイオワ州、ミネソタ州、ネブラスカ州等の単収が前月予測から上方修正されたことから、前月予測から0.6百万トン上方修正され、前年度より6.4%増の381.5百万トンと2016/17年度に次ぐ史上第2位の見込み。

「Crop Progress」(2021.10.18)によれば、収穫期の好天に恵まれ、10月17日現在の主要18州における成熟進捗率は97%と前年度同期(97%)並みで、過去5年平均(93%)より進んでいる。収穫進捗率は52%と前年度同期(57%)より遅れているものの、過去5年平均(41%)より進んでいる。作柄評価は、生育期のコーンベルト北西部の高温乾燥の影響により、良からやや良が60%と前年度同期(61%)を下回っている。

【需要動向】USDAによれば、2021/22年度の飼料用消費量は、前年度消費の低下傾向を反映し前月予測から1.3百万トン下方修正されたものの、前年度より増加する見込み。一方、国内のワクチン接種の進展に伴い、自動車を運転する機会が増加することによる燃料用エタノールの需要増からエタノール向け需要は前年度より増加することから、消費量全体では前年度より1.8%増の311.9百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の輸出量は、生産量の上方修正及び同時期のブラジル、ロシア、ウクライナの輸出量の下方修正に伴う輸出競争の減少予想から、前月予測から0.6百万トン上方修正されたものの、史上最高の輸出量となった前年度より9.2%減の63.5百万トンの見込み。

USDAによれば、輸出検証高(2021年1月7日～9月30日)は、53.1百万トンであり、内訳は中国(16.3百万トン)、メキシコ(11.4百万トン)、日本(9.3百万トン)、韓国(3.1百万トン)の順である。なお、8月29日に米国ガルフに上陸したハリケーン・アイダにより一部の穀物輸出施設が被害を受けたが、おおむね復旧しているとみられる。

USDAによれば、2021/22年度の期末在庫量は、供給量の上方修正と需要量の下方修正により、前月予測から2.3百万トン上方修正され、前年度より21.3%増の38.1百万トンの見込み。なお、期末在庫率は10.1%で依然として低水準の見込み。

とうもろこし—米国

(単位：百万トン)

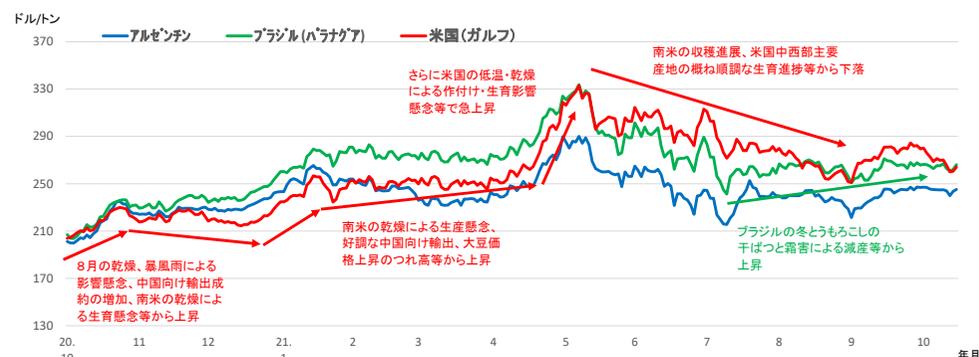
年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生産量	346.0	358.5	381.5	0.6	6.4
消費量	309.6	306.5	311.9	▲ 1.1	1.8
うち飼料用	149.9	142.2	143.5	▲ 1.3	0.9
エタノール用等	123.4	127.8	132.1	-	3.3
輸 出 量	45.1	69.9	63.5	0.6	▲ 9.2
輸 入 量	1.1	0.6	0.6	-	3.2
期末在庫量	48.8	31.4	38.1	2.3	21.3
期末在庫率	13.7%	8.3%	10.1%	0.6	1.8

(参考)

収穫面積(百万ha)	32.92	33.31	34.43	-	3.4
単収(t/ha)	10.51	10.76	11.08	0.02	3.0

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(12 October 2021)

図：米国、ブラジル、アルゼンチンのとうもろこし輸出価格(FOB)の推移



資料：IGCのデータをもとに農林水産省にて作成

## < ブラジル > 収穫面積増、単収増で生産量史上最高の見通し

【生育・生産状況】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、収穫面積及び単収の増加により、前年度より37.2%増の118.0百万トンとなり、史上最高の見込み。

CONAB月例報告(2021.10.7)によれば、現在作付けされている2021/22年度の夏とうもろこしの生産量は、作付面積及び単収の増加により、前年度比14.5%増の28.3百万トンの見込み。一方、大豆収穫後に作付けされる冬とうもろこしの生産量は、前年度比41.3%増の88.0百万トンが見込まれ、合計では前年度比33.7%増の116.3百万トンで史上最高の見込み。(P.21 大豆-ブラジルのクロープカレンダー参照)。

10月上旬から中旬にかけてブラジル中西部・南部の主産地で広く降雨があり、作付け・発芽を促した。夏とうもろこしの作付進捗率は、南部のパラナ州で10月18日現在88%、南部のリオ・グランデ・ド・スール州で10月14日現在65%となっている。

【需給状況】USDAによれば、2021/22年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、飼料用消費の増加に伴い、前年度より4.3%増の73.0百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、生産量の増加に伴い、干ばつ・霜害の影響で大幅減産となった前年度より115.0%増の43.0百万トンで史上最高の見込み。なお、2020/21年度の輸出量は、生産量の減少に伴い、前月予測から2.0百万トン下方修正され、20.0百万トンの見込み。

ブラジル貿易統計によれば、2021年1～9月の輸出量は12.8百万トンで、前年同期(19.8百万トン)と比べ35.4%減となっている。内訳は、1位がイラン2.1百万トン、2位がスペイン1.6百万トン、3位がエジプト1.5百万トンとなっている。

## とうもろこし-ブラジル

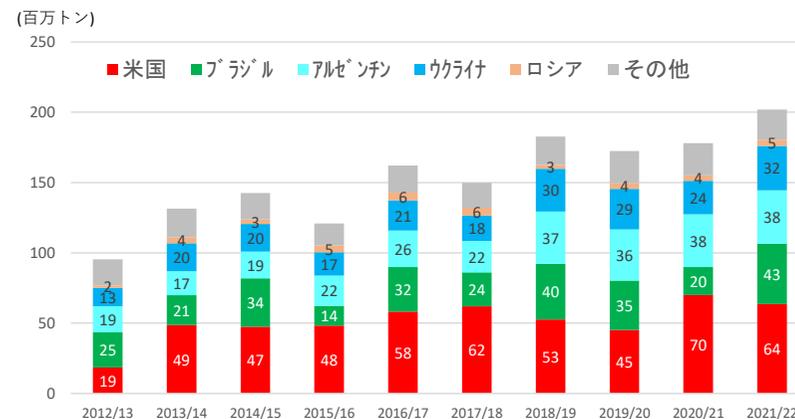
(大豆収穫後に栽培する冬とうもろこしが3/4を占め、夏とうもろこしは1/4)

(単位:百万トン)

年度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22			
			予測値、( )はIGC		前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	102.0	86.0	118.0	(117.4)	-	37.2
消費量	68.5	70.0	73.0	(76.2)	-	4.3
うち飼料用	58.5	60.0	62.0	(55.7)	-	3.3
輸出量	35.2	20.0	43.0	(40.0)	-	115.0
輸入量	1.7	3.5	1.7	(0.5)	-	▲51.4
期末在庫量	5.2	4.7	8.4	(5.9)	-	78.2
期末在庫率	5.0%	5.3%	7.3%	(5.1%)	-	2.0
(参考)						
収穫面積(百万ha)	18.50	19.83	20.80	(20.60)	-	4.9
単収(t/ha)	5.51	4.34	5.67	(5.70)	-	30.6

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(12 October 2021)  
IGC「Grain Market Report」(23 September 2021)

図:世界のとうもろこし輸出国の輸出量の推移



資料:USDA「PS&D」(2021.10.12)のデータをもとに農林水産省にて作成

## ＜ アルゼンチン ＞ 生産量史上最高も輸出税継続

【生育・生産状況】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、収穫面積及び単収の増加により、前年度より6.0%増の53.0百万トンと史上最高の見込み。

ブエノスアイレス穀物取引所週報（2021.10.21）によれば、最近作付けられた圃場は生育にさらに降雨が必要。産地の南部は作付けに適した土壌水分となっている。作付進捗率は26%で、過去5年平均より7ポイント遅れている。

【需給状況】USDAによれば、2021/22年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、前年度より3.6%増の14.5百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、前年度より1.3%増の38.0百万トンの見込み。

アルゼンチン国家統計局によれば、2021年1～8月の輸出量は27.1百万トンで、前年同期（29.0百万トン）より6.3%減。内訳は、1位がベトナム4.4百万トン、2位がエジプト2.9百万トン、3位が韓国2.5百万トン。7月26日に180日間の渇水の緊急事態宣言が発令されたパラナ川の水位低下に伴うアルゼンチンの穀物等の輸出への影響に注視が必要である。

アルゼンチン政府は、財政赤字の補填等のため、2019年12月14日、輸出税を約7%から12%へ引き上げ、その後継続している。

## とうもろこしーアルゼンチン

(単位：百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値、( )はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	51.0	50.0	53.0 (63.3)	-	6.0
消費量	13.5	14.0	14.5 (22.6)	-	3.6
うち飼料用	9.5	10.0	10.5 (17.6)	-	5.0
輸出量	36.3	37.5	38.0 (37.0)	-	1.3
輸入量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	-
期末在庫量	3.6	2.1	2.6 (9.0)	-	24.1
期末在庫率	7.3%	4.1%	5.0% (15.1%)	-	0.9
(参考)					
収穫面積(百万ha)	6.30	6.40	6.50 (8.30)	-	1.6
単収(t/ha)	8.10	7.81	8.15 (7.63)	-	4.4

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(12 October 2021)  
IGC「Grain Market Report」(23 September 2021)

写真：北部サンタフェ州のとうもろこしの作付け風景  
(9月19日撮影)



## < 中国 > 収穫面積増、単収増で生産量史上最高、消費量も史上最高の見通し

【生育・生産状況】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、収穫面積及び単収の増加により、前年度より4.7%増の273.0百万トンと史上最高の見込み。

中国糧油情報センター（2021.10.8）によれば、9月は東北地区の大部分は晴天と雨天が交互する温暖な天候で登熟・成熟に有利であったが、一部地域では日照が少なく、強い降雨があり、倒伏被害が発生した。中国中央气象台（2021.10.8）によれば、10月上旬現在、東北地区の春とうもろこしは概ね収穫が終了している。河南省等の夏とうもろこしは、乳熟期から成熟・収穫期に入っている。

【需給状況】USDAによれば、2021/22年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、旺盛な飼料用消費から前年度より3.2%増の294.0百万トンと史上最高の見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく、前年度より7.1%減の26.0百万トンの見込み。なお、2020/21年度の輸入量は貿易実績を元に前月予測から2.0百万トン上方修正され、28.0百万トンと史上最高の見込み。

中国の貿易統計によれば、2021年1～8月の輸入量は21.4百万トンで、前年同期の3.8倍となり、前年の年間輸入量の1.9倍。内訳は、米国産14.3百万トン（67%）、ウクライナ産7.0百万トン（33%）で、前年同期はウクライナ産が85%を占めたが、米国産の輸入が大幅に増加している。

農業農村部「農産品供需形勢分析月報8月号」によると、8月の国内流通価格は、2,820元/トンと、依然として、高水準で推移した。しかしながら、今後の見通しについては、「新穀が続々と市場に入り、市場供給はさらに増加する一方、小麦の代替供給の存在や、飼料需要やトウモロコシ深度加工企業の需要の弱まりにより、国内市場価格は弱含み」とされている。一方、8月の外国産価格は2,560元/トンと前月（2,840元/トン）から大幅に下落した。今後の中国の輸入動向に注視が必要である。

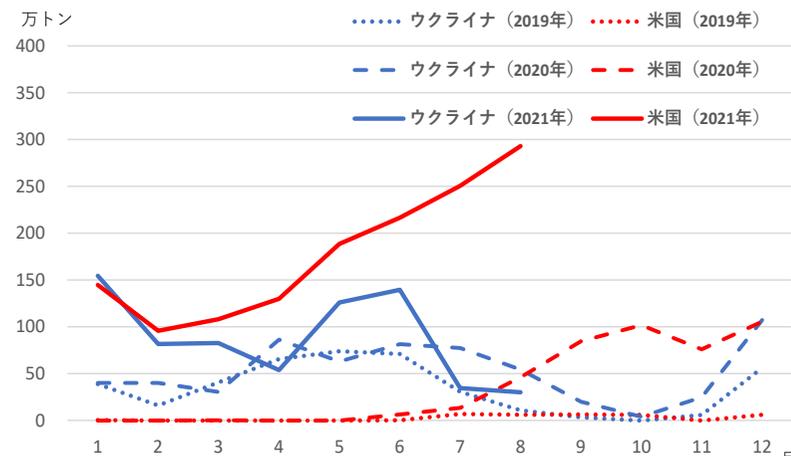
## とうもろこし—中国

(単位：百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22			
			予測値、( )はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	260.8	260.7	273.0 (272.8)	-	4.7	
消費量	278.0	285.0	294.0 (296.2)	-	3.2	
うち飼料用	193.0	203.0	214.0 (192.0)	-	5.4	
輸 出 量	0.0	0.0	0.0 (0.1)	-	100.0	
輸 入 量	7.6	28.0	26.0 (16.5)	-	▲ 7.1	
期末在庫量	200.5	204.2	209.2 (186.9)	2.0	2.4	
期末在庫率	72.1%	71.6%	71.1% (63.1%)	0.7	▲ 0.5	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	41.28	41.26	42.00 (42.90)	-	1.8	
単収(t/ha)	6.32	6.32	6.50 (6.36)	-	2.8	

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(12 October 2021)  
IGC「Grain Market Report」(23 September 2021)

図：中国におけるウクライナ・米国産とうもろこしの輸入状況



出典：中国海関統計

注：2020年1月分と2月分は合計で公表されたため、便宜上1/2で按分